

世界の美術の宝庫を訪れるにあたって

マドリードの芸術

ペラスケスが『ラス・メニーナス』
に描かれている理由

『エルチェノ貴婦人』
イベリア彫刻

歴史的作品：
『ゲルニカ』

チェンベリの巨匠
ソローリャ

宮廷の舞台
である王宮

ゴヤの代表的
作品とは



jMADRID!



ゲルニカ、1936、パブロ・ピカソ © Sucesión Pablo Picasso. VEGAP, Madrid, 2017

マドリードの芸術

スペイン王族の宮廷画家であったゴヤとベラスケスが制作に従事した街としてだけでなく、マドリードにはヨーロッパ様式の大部分を代表する重要な文化財が集まっています。このガイドでは、西欧芸術の主要テーマを通して、この街の主な美術館・博物館を少しでもわかりやすくご紹介することを目的としています。言うまでもなく、このガイドの中心となるスポットは、世界を代表する3つの美術館である国立プラド美術館、ティッセン＝ボルネミッサ美術館とソフィア王妃美術館が並ぶほぼ1キロメートル半にわたる芸術の散策道です。ここでは、中世から現在までにいたる芸術の旅をご体験いただけます。芸術愛好家としては、現在国立文化財局が

理するスペイン王族関連の一連の建築物や庭園であるレアレス・シティオス（王室文化財）も見逃せません。マドリードの街には、高級装飾品、建築物や絵画が豊富に収蔵されているラス・デスカルス修道院、ラ・エンカルナシオン修道院、エル・パルド宮殿、王宮があります。さらに、マドリード州にはこのほかに、アランフェス宮殿とエル・エスコリアル修道院があります。

これらのコレクションは芸術作品だけではなくありません。国立考古学博物館では、イベリア半島に存在した数々の民族、そして地中海特有の生活や習慣を紹介しています。比較的名知名度が低いマドリードのそのほかの国立美術・博物館には、セラルボ美術

館、ロマネスク美術館、アメリカ博物館、民族博物館、装飾博物館やソローリア美術館などが挙げられます。また、ラサロ・ガルディアノ氏の私有コレクションが展示されているラサロ・ガルディアノ財団もこの街に位置しています。特記すべきスポットとしては、芸術の研究、啓蒙と保護活動に加えてマドリードマドリードの美術館美術館を代表する上質な美術を鑑賞できる王立サン・フェルナンド美術アカデミーがあります。芸術の歴史における巨匠たちによる多くの作品を収蔵する世界の美術の宝庫であるマドリードの美術館・博物館を熟知するには、一生分の時間がかかることでしょう。

プラド美術館

美術史学者のジョナサン・ブラウン氏は、「プラド美術館がヨーロッパ絵画に関する世界一の美術館であることに異議を唱える人はほとんどいないであろう」と述べています。賛否はさておき、この美術館にはスペイン芸術の最大規模のコレクションが収蔵されていることは間違いなく、その展示室にはラファエル、エル・グレコやルーベンスの代表作が、驚くほど豊富に展示されています。

王族と皇族

プラド美術館所蔵品の大部分はスペイン王族の絵画コレクションで占められているため、宮廷肖像画が数多く鑑賞できます。その代表作としては、ティツィアーノの『カール5世騎馬像』やアントニオ・モロ、サンチェス・コエリョやソフォニスバ・アングイッソラによって描かれたフェリペ2世とその家族の肖像画などが挙げられます。しかし、この美術館を最も象徴する作品は、フェリペ4世の王女、マルガリータ王女が女官や道化たちに囲まれた様子を描いたベラスケスの『ラス・メニーナス』（女官たち）、そしてゴヤの『カルロス4世の家族』の2大画でしょう。このどちらの作品においても、当時の暗黙の常識を逸脱した大胆な作風で王室一族を描写しています。こうして、ベラスケスもゴヤも自身と絵画芸術の崇高さを主張しています。



古典神話

ギリシャローマ神話は、数世紀にわたって芸術家が裸体を描くのに最適な言い訳となっていました。神々と英雄たちの物語は、理性と道徳の観点から不可能であるとされた場面を描くことの可能性を追求しています。当時から『詩想画』と呼ばれていたティツィアーノによる『アンドロス島の人々/バックス祭り』などの一連の作品や、ルーベンスの多くの絵画は紛れもなく官能的な作品です。ルーベンスが愛した自作のひとつである『三美神』は、彼の2番目の妻、ヘレナ・フォーメントをモデルに描かれています。同じくベラスケスも多くの神話をテーマとする作品を描きましたが、官能的な描写を意図するものではなく、権力や権威について考察した寓話となっています。『織女たち』や『バックスの勝利』がこの作風を表しています。



1. 『ラス・メニーナス』、1656、(詳細) ディエゴ・ベラスケス
2. 国立プラド美術館
3. 『アンドロス島の人々/バックス祭り』、1523年～1526年、ティツィアーノ
4. 『三美神』、1635、ルーベンス
5. 『洗足式』、1548年～1549年、ティントレット
6. 『聖三位一体』、1577年～1579年、エル・グレコ
7. 『マドリド、1808年5月3日 (プリンシパ・ピオの丘での銃殺)』
8. 『快楽の園』、1500年～1510年、ヒエロニムス・ボス

© Madrid, Museo Nacional del Prado

宗教画

プラド美術館の宗教画のなかで特に際立つ傑作として、ファン・デル・ウェイデンの『十字架降下』、そしてフラ・アンジェリコの『受胎告知』があります。この2つの作品は15世紀ヨーロッパ芸術の代表作で、『十字架降下』はフランドル、『受胎告知』はフィレンツェで描かれました。また、ヴェネツィア派の絵画が集められた展示室も見ごたえがあります。なかでも、ティントレットの『聖木曜日の洗足式』、そしてエル・グレコの『聖三位一体』、リベラの『聖フィリポの殉教』、スルバランの『ポルトガルの聖イザベル』やムリーヨの『無原罪の御宿り』などの16世紀から17世紀のスペイン絵画は傑作です。

歴史を直に感じる

ゴヤの『1808年5月3日、銃殺』と『1808年5月2日、エジプト人親衛隊との戦闘』の2つの作品を通して、1808年5月にマドリド市民がナポレオン軍に対して起こした暴動の史実を再現することができます。この絵画によってゴヤは、歴史という分野をより身近に感じさせる効果をもたらし、これまでの歴史に対する姿勢を大きく変革しました。19世紀の絵画を集めたプラド美術館の展示室でも、アントニオ・ジスベルト・ペレスの『マラガ海岸でのトリホスと同胞たちの銃殺』などから近年の例が鑑賞できます。



夢と悪夢

地獄と天国を描いた作品のなかでも、プラド美術館にはヒエロニムス・ボスの『快楽の園』と『乾草車』の2大傑作が収蔵されており、その写実的技法だけではなく、繰り広げられる幻想的な世界から、唯一無二の芸術として称賛されています。同様の観点から、パティニールやピーテル・ブリューゲルといったフランドル派の画家たちの作品を理解することができます。数世紀後のスペインにおいても、ゴヤによって脅威と恐怖が『黒い絵』シリーズで表現されました。この一連の絵画はゴヤの自宅であったキンタ・デル・ソトの壁に描かれ、現在ではプラド美術館に展示されています。

プラド美術館

Paseo del Prado, s/n

902 10 70 77

museodelprado.es

月曜日から土曜日、
午前10時から午後8
時まで

日曜日と祝日、午前10
時から午後7時まで



マド リードの学問

カルロス3世はマドリードを重要な学問の中心地とすることを旨として、自然史研究室の建設を命じました。これが現在のプラド美術館がある建物であり、植物庭園のちょうど前にあります。この一群の建築の指揮を取ったのは、新古典主義の建築家、ファン・デ・ビリャヌエバでした。

ティッセン＝ボルネミッサ美術館



1992年、ヴィリヤエルモサ広場にティッセン＝ボルネミッサコレクションが創立されました。ここでは、ハインリヒ男爵家とハンス・ハインリヒ男爵の好みで収集された作品の主なものが収蔵されており、中央ヨーロッパ芸術の変遷を辿ることができます。創立当時からマドリッドを代表する美術館のひとつに数えられ、後にカルメン・ティッセン＝ボルネミッサによって買い集められた作品が加えられました。17世紀のオランダ絵画、19世紀の北アメリカ絵画、印象派と初期前衛美術の作品が数多く所蔵されています。

肖像画の革命

ティッセン＝ボルネミッサ美術館ではこの分野が特に重要な役割を果たしており、ギルランダイオの『ジョヴァンナ・トルナブオーニ』や、全身像を描いた初期の肖像画であるカルパッチョの『若い騎士の肖像』などのルネッサンス派の傑作を展示しています。また、同時期の北ヨーロッパの作品としては、ハンス・ホルバインのヘンリー8世の肖像やロベルト・カンピンの『太った男』が挙げられます。20世紀になると、オットー・ディクスの『犬を連れたフーゴ・エルフルト』、ベーコンの『鏡の中のジョージ・ダイアー』やルシアン・フロイトの『自画像と2人の子供』のような強烈な個性が際立つ作品が目を引き、何らかの形で同じ作風を引き継いでいることが窺われます。

ホッパーの『ホテルの部屋』を通してこの旅の気分を味わうことができます。ホッパーは修行時代にスペインを訪れ、マドリッドで見たゴヤから深い影響を受けました。



2



3

世界一周

コレクションの作品を通して、ほんの数メートルで世界一周の旅をすることができます。カナレットの手による18世紀の『ヴェネツィア、サンマルコ広場』からピサロが1897年の雨の日に描いた『サントノーレ通り』までの旅。または、ゴッガンに『マダムア(むかしむかし)』などの多くの作品を描かせた極東のタヒチの景色は、トマス・コールをはじめとするハドソン・リバー派の画家たちにもよく表現されました。同美術館のコレクションのなかでも高い人気を誇るエドワード・



1



4

芝居の幕開け

絵画は視覚に訴え掛けることから、多くのキャンバスに舞台の一場面が描かれています。19世紀末、ドガはショー、バレエや競馬を描く芸術家でした。収蔵作品のなかでは、『緑の衣装をつけた踊り子』がその躍動感から特に際立っています。アウグスト・マッケの『サーカス』は、落下した綱渡り芸人を描いています。また、この美術館では楽隊とピエロを描いたことでも知られるピカソの『鏡を持つアルルカン』が収蔵されています。



抽象と造形

美術史の教本さながらに、この膨大なコレクションでは美術革新の多様な変遷を細部にわたって鑑賞することができます。印象派、キュビズム、構成主義やシュールレアリスムなどの運動が完璧に捉えられており、20世紀後半の北アメリカ美術、抽象絵画、ポップアートやハイパーリアリズムもコレクションに加えられています。なかでも注目に値するのは、ブラック、ポポーフ、モンドリアン、リキテンスタインやロスコの作品でしょう。



1. 『ジョヴァンナ・トルナブオーニの肖像』、1489 1490
ドメニコ・ギランダイオ
2. ティッセン=ボルネミッサ美術館
3. 『ホテルの部屋』 1931
Edward Hopper
4. 『マタムア (むかしむかし)』
1892
Paul Gauguin
© Colección Carmen Thyssen-Bornemisza

5. 『緑の衣装をつけた踊り子』
1877-1879
Edgar Degas
6. 『浴室の女』、1963
© Estate of Roy Lichtenstein / VEGAP, 2017
7. 『絵画的建築』 1918
Liubov Popova
8. オーヴェル近郊の『ヴェセノの眺め』 1890
Vincent van Gogh
© Museo Thyssen-Bornemisza, Madrid



天才たち

ティッセン美術館では、伝説的な個性が際立つ「絵画の天才たち」と呼ばれる芸術家たちの歴史を辿ることができます。ここに名を連ねるのが、『博士たちと議論するキリスト』をコレクションに含むデューラー、『アレクサンドリアの聖カタリナ』を描いたすぐ後に殺人の容疑をかけられてローマから逃亡したカラヴァッジョ、数多くの自画像のひとつがマドリードで見られるレンブラント、そして命を絶つ数日前に『ヴェセノの眺め』を描いたバン・ゴッホです。



レトラス地区

ティッセン=ボルネミッサ美術館からすぐのウエルタ通り周辺には、ロベ・デ・ベガの家、セルバンテスが埋葬されているトリニタリアス教会、アテネオ・デ・マドリード文芸協会、そして現役の劇場としてはヨーロッパ最古のスペイン劇場があります。

ティッセン=ボルネミッサ美術館

Paseo del Prado, 8

91 791 13 70

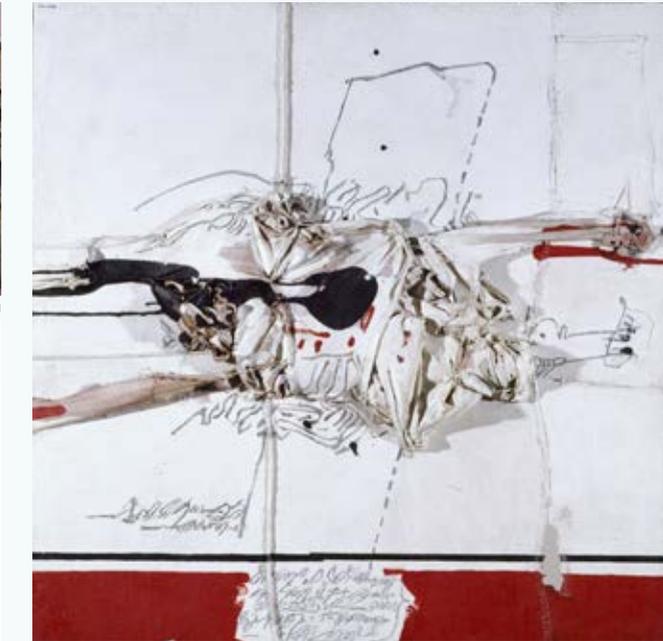
museothyssen.org

火曜日から日曜日と
祝日、午前10時から
午後7時まで
月曜日、午後0時か
ら午後4時まで

ソフィア王妃美術館



1937年に開催されたパリ万国博覧会のスペイン館のためにピカソが制作した『ゲルニカ』を中心に、ヨーロッパを代表する現代美術のコレクションが展示されています。この美術館では多岐にわたる展示会や活動が企画され、また常に変化を遂げる展示室では、絵画だけでなく、抽象的空間としての造形芸術およびパフォーマンスを含むその他の芸術表現にも注目しています。



スペイン内戦

内戦の最中、共和国政府は1937年のパリ万国博覧会のスペイン館を共和国側の宣伝の場と考えました。ゲルニカ爆撃を批判したピカソの大作のほかにも、この美術館にはホセ・ルイス・セルトとルイス・ラカサが設計したスペイン館の模型などの作品が所蔵されています。同じ展示室には、ヨーロッパ全体主義の繁栄が伺われるフリオ・ゴンサレスの『叫ぶモンセラトのマスク』やガルガリオの『大預言者』が陳列されています。

暴力

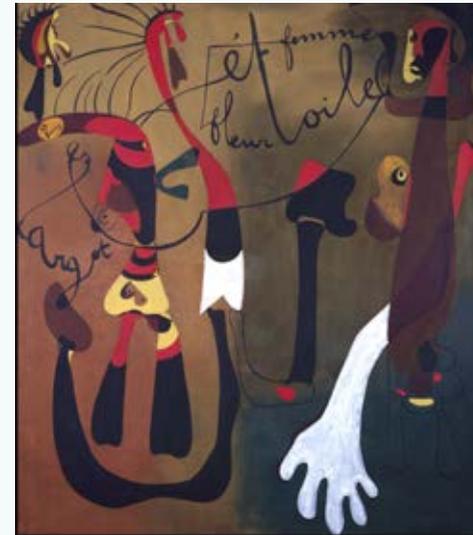
長期にわたる生々しい戦争の傷跡、脱植民地化後の複雑な関係、自由を目指すさまざまな運動、ベルリンの壁崩壊や中央および地方権力の再構築などを背景にした政治的緊張に満ちた世界は、多様な角度からの表現を生み出しました。スペインではエル・バソとダウ・アル・セットの芸術家グループに代表されるアンフォルメル、アルテ・ポーヴェラや新しいヨーロッパのリアリズムなどが、20世紀後半の見ごたえある表現の世界を作り出しています。この意味では、ピストレットの『審判のトランペット』やカルロス・レペの『ハンガーラック』の2作品が注目に値します。

夢

シュールレアリスムの世界は多くの前衛芸術家たちの創作意欲をかきたてました。サルバドル・ダリは偏執狂的批判的方法を提唱して、夢をキャンバスに映し出しました。ソフィア王妃美術館は、『窓辺の少女』や『大自慰者』などのダリの有名な作品を数点所蔵しています。同じくシュールレアリスム運動の芸術家としては、オスカル・ドミンゲスとミロが挙げられ、『カタツムリ、女、花、星』などの数多くの作品を鑑賞していただくことができます。

フェミニズム

20世紀半ばに入っても女性が芸術家として認められることは非常に稀でした。ソフィア王妃美術館では、前衛芸術の女性画家たちに特に注目しています。このなかには、フアン・グリスの作品と混同されることが多かったマリア・ブランチャード、1917年から1921年までスペインに移住したソニア・ドローネーやアルベルト・サンチェスとベンハミン・パレンシアと共にバリエカス派に参加したマルハ・マリョなどの作品が含まれます。アンヘレス・サントスの『一世界』はコレクションの重要な作品のひとつとなっています。20世紀を辿るにあたっては、リジア・クラーク、ナンシー・スベロ、ルイーズ・ブルジョワやエステル・フェレルの作品も見逃せません。



1. ソフィア王妃芸術センター国立美術館
 2. 『モンセラトの叫ぶマスク』 1938-1939 © Julio González, VEGAP, Madrid, 2017
 3. 『墜落した人物 1』 1970 © Manuel Millares, VEGAP, Madrid, 2017
 4. 『カタツムリ、女、花、星』 1934 Joan Miró © Successió Miró 2017
 5. 『一世界』 1929 © Ángeles Santos, VEGAP, Madrid, 2017
 6. 『大自慰者』 1929 © Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, VEGAP, Madrid, 2017
 7. 『カフェボンボの文芸サークル』 1920 © José Gutiérrez Solana, VEGAP, Madrid, 2017
- © Madrid, Museo Reina Sofia

ソフィア王妃 美術館

Santa Isabel, 52

91 774 10 00
museoreinasofia.es

月曜日から土曜日、
午前10時から午後
9時まで
日曜日、午前10時か
ら午後7時まで
火曜日、閉館

詩人と知識人

ソフィア王妃美術館の常設展はさまざまな知識分野で構成されていますが、なかでも文学は非常に重要な影響力を持っています。スペイン前衛芸術の普及における第一人者として知られるラモン・ゴメス・デ・ラ・セルナが率先して活動を行った『カフェボンボの文芸サークル』の様子は、グティエレス・ソラナによって描かれました。カリスマ的な人気を誇るフェデリコ・ガルシア・ロルカが主催したラ・バラッカ劇団には当時の多くの芸術家たちが参加しました。さらに、1970年代から80年代のカウンターカルチャーがこの分野に含まれています。



7

ラモン・ゴメ ス・デ・ラ・セル ナの書斎

この近代美術館には、作家ラモン・ゴメス・デ・ラ・セルナの書斎が保存されています。書籍や雑誌の数々の切り抜きで埋め尽くされた壁自体が、この空間を芸術作品としての空間を作り出しています。



レティロ公園

レティロ公園は、同名の旧宮殿の歴史的庭園をその前身としています。19世紀末より散歩道を飾っている数々のモニュメントは、公園全体を彫刻の野外美術館と化しています。また、ガラス宮殿とベラスケス宮殿では、ソフィア王妃美術館が企画する展示会の場となっています。



レティロ公園

芸術の散歩道

プラド美術館、ティッセン＝ボルネミッサ美術館とソフィア王妃美術館を繋ぐ一体は、芸術の散歩道として知られています。それぞれの美術館を1回ずつ観覧できる1年間有効のフリーパスや、絶対見逃せない24作品についての解説付きのスマートフォンアプリの「見逃せない芸術の散歩道」をお楽しみいただけます。



プラド美術館

王宮

この荘厳な建物は、アストゥリアス家のアルカサル跡に建築家のフイリポ・フバラとジャンバティスタにより設計、建設されました。行事等がある日を除く毎日、美術館として一般公開しています。王宮の膨大な絵画、彫刻、武具や装飾美術のコレクションは世界でも有数のものです。スペイン王族の公式居所ではありますが、実際にはスペイン国王はマドリッド郊外のサルスエラ宮殿に住んでいます。

装飾美術

多くの歴史の変遷を経て、マドリッド王宮は現在まで大半の原型を留めています。カルロス3世の着替えの間として用いられたロココ調の傑作であるガスパリーニの間と、16世紀にギジェルモ・パンネマーケルによって制作された繊細なタペストリーが飾られた、アルフォンソ12世の時代に装飾された宴の間の美しさが目を引きます。この王宮の時計、ソファ、椅子やランプは、重要な政治の鍵を握る多くの会話を目の当たりにし、今日でも厳かな祝いの場で歴史の証人として佇んでいます。



権力の象徴

ティエポロによる王座の間とコラード・ジアキントの手がけた王室礼拝堂の天井の画のほかにも、王宮内にはゴヤ作の数々の肖像画やカラヴァッジョの『洗礼者聖ヨハネの首を持つサロメ』が保存されています。フアン・デ・フランデス、ルーベンスやウィンター・ハルターなどによって、王宮を飾る膨大な絵画が描かれました。

楽器と武具

王宮にある素晴らしいコレクションのなかでも、バイオリン2挺、ヴィオラ1挺とストラディバリウスがカルロス2世のために制作したチェロ1挺からなる王立四重奏が見どころです。また、武具庫にも、スペインイスラム芸術の傑作である、グラナダのナスル朝工房で作られた耳付き短剣やカルロス5世の防具兜などの逸品が保存されています。



1. 王宮
2. ガスパリーニの間
3. カルロス5世のブルゴニー
1470-1532.Kolman Helmschmid
4. マリア・ルイサ・デ・パルマ
王妃 1799. (細部)
Francisco de Goya
5. アイネアース神話
1762-1766. (細部)
Giovanni Battista Tiepolo
6. 地図、1800
Abraham Louis Breguet
© Patrimonio Nacional

王宮

Bailén, s/n

91 454 88 00

patrimonio
nacional.es

毎日、冬季は午前10時
から午後6時まで、夏季
は午前10時から午後
8時まで



サン・フランシスコ・エル・グランデ教会

宮殿からすぐ近くに、マドリッドで最も美しいといっても過言ではないサン・フランシスコ・エル・グランデ教会があります。直径33メートルにも及ぶ巨大なドームを持つことからこのように名付けられています。



王室文化財

ラス・デスカルサス王立修道院とラ・エンカルナシオン王立修道院はその創立当時から王家と深く関わってきました。また、エル・プラド宮殿は、王族の楽しみと休暇の場として使われました。マドリード近辺では、アランフエスの庭園とユネスコ遺産に認定されたエル・エスコリアル修道院が貴重な文化財としての価値を有しています。

エスコリアル修道院が

王立サン・フェルナンド美術アカデミー



1752年フェリペ5世によって創立された王立サン・フェルナンド美術アカデミーは、イタリアとフランスの美術アカデミーを模しています。創立当時から、絵画、彫刻と建築に関連する議論を率先して行ってきました。また、アカデミーの建物であるゴジェネチェ宮殿は1967年まで美術学校も併設しており、ピカソやダリが学びました。この美術館には、現存するゴヤの絵画や版画コレクションとしては世界有数の所蔵品を展示しています。

巨匠とモデルたち

この美術館は、ヴァン・ルー、メングスやゴヤなど同アカデミー会員だった巨匠たちの傑作を所蔵しています。展示されているゴヤの作品のなかでも、マヌエル・ゴドイの肖像画である『オレンジ戦争指令官としてのゴドイ』と女優をモデルにした『ティラナ』、そして19世紀初頭のカーニバルの水曜日の雰囲気を描かれた『鱈の埋葬』が特に注目に値します。また、アロンソ・カノ、ムリリョやルーベンスなど、アカデミーで学ぶ学生たちのお手本となった数多くのそのほかの画家たちの作品も必見です。ホセ・グティエレス・ソラナ、アントニオ・ロペスやルシオ・ムニョスもこの美術学校の学生でした。

特異な人物像

古典的な作品に加えてアカデミーは多くの珍しい絵画も所蔵し、なかでも、花で頭部全体が覆われた半身像が描かれたアルチンボルドの『春』が特に目を引きます。また、最終的には死が待ち受けている人生におけるすべての虚栄を前に眠る騎士を描いたアントニオ・デ・ペレダの『騎士の夢』や、20世紀初期のスペイン象徴主義の一派を代表するフリオ・ロメロ・デ・トレスの不思議な『祈る女』などの絵画も見ごたえがあります。



スペイン国立銅版画

ゴジェネチェ宮殿には、啓蒙主義の一環として生まれた大規模な版画企画を実施するために1789年に作られた国立銅版画も展示されています。この作品群を代表する至宝は、ゴヤが版画の連作を制作した銅板でしょう。『カプリチオス』、『戦争の惨禍』、『闘牛技』と『妄』が保管されています。



王立サン・フェルナンド美術アカデミー

Alcalá, 13

91 524 08 64

火曜日から日曜日と
祝日、午前10時から
午後3時まで
月曜日閉館

1. 『ヴィーナス、メルクリウスとキューピッド』、1748
ルイス＝ミシェル・ヴァン・ロー
 2. 『春』、1563、
ジュゼッペ・アルチンボルド
 3. 『彼女は飛び去った』、1799、
フランシスコ・デ・ゴヤ
- © Real Academia de Bellas Artes de San Fernando



サン・アントニオ・デ・ラ・フロリダ

トロンブルイユ、だまし絵の素晴らしい技法によって、ゴヤが1798年に描いた人物たちがドームの頭上から覗きます。20世紀初頭にゴヤの遺体がこの聖堂に移され、マドリードを誰よりも的確に描写したこの画家の大霊廟となりました。

展示場

美術館が企画する美術展のほかにも、私立・公立財団や文化センターが見ごたえのある展示イベントを開催しています。こういったマドリードの文化スポットのなかでも、カイシャ・フォーラム、シベレスセンター、ファン・マルチ財団や、ジョアン・ミロの常設展を提供しているマフレ財団のレコレトス展示場は見逃せません。

国立考古学博物館



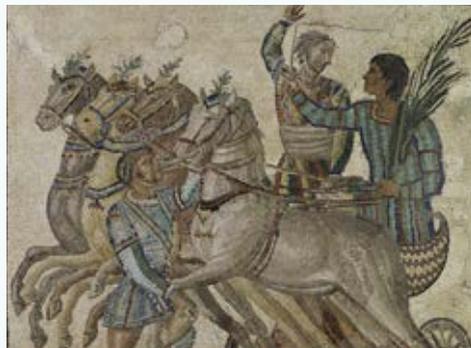
各国固有の歴史に関する資料を展示している世界各地の大博物館と同様に、1867年にイサベル2世によって創立されたスペイン国立考古学博物館でも、イベリア半島と地中海に足跡を遺した多様な文化における生活の様子が垣間見られる考古学資料のコレクションを収集しています。見ごたえある展示品のなかでも、イベリア彫刻、古代ローマのモザイク、西ゴート族の調度品、スペインイスラムの象牙箱や中世建築物が特に注目に値します。

死者の世界

『エルチェの貴婦人』は、この美術館で最も人気の高い展示品と言えるでしょう。骨壺であったのではないかという説があります。その真否はともかくとして、この像の調和された穏やかな表情から、ローマ人による支配以前にイベリア半島に定着していたイベリア民族芸術としては最大級の作品とされています。エジプトとグアンチュエのミイラ、ケルト民族の調度品やオレステスなどの古代ローマの石棺は、奥深い死者の世界を表現したほんの一例です。

建築

また、この博物館は、現在ではまるでひとつの絵のごとく展示されている古代ローマのモザイク、ムデハル様式の格天井(スペインイスラム技法によってカトリック系の建物に取り入れられたもの)や一連の古代ローマ柱頭などの重要な建築装飾物を数多く所蔵しています。中世と近代をテーマとした展示室も一見に値します。



1. 『レセヴィントの冠』
©MAN, Santiago Relanzón
2. 『エルチェの貴婦人』
©MAN, Santiago Relanzón
3. クアドリガを表す古代ローマモザイク ©MAN, Jordi Moliner
4. 『サモラの壺』
©MAN, Santiago Relanzón
5. 『ウシャプティの箱』
©MAN, Raúl Fernández
6. 『サグラハスの首飾り』
©MAN, Santiago Relanzón



高級装飾品

鏡、装飾品や壺などの高級品も、国立考古学博物館が所有するコレクションに所蔵されています。なかでも特に傑出しているのは、西ゴート族の献上物である『グアラサルの献上冠』やコルドバのカリフ、アル=ハカム2世が作らせた繊細な象牙細工である『サモラの壺』でしょう。



デボ神殿

クアルテル・デ・ラ・モンターニャ公園の頂上には、紀元前2世紀の本物のエジプト神殿がそびえ立っています。アスワンハイダム建設における援助への感謝のしるしとして、スペインに寄贈されました。

国立考古学博物館

Serrano, 13

91 577 79 12

man.es

火曜日から土曜日、
午前9時半から午後8時まで
日曜日、午前9時半から午後3時まで
月曜日閉館

民族博物館

国立民族学博物館、衣装博物館とアメリカ博物館に陳列されている展示物の多くは、先コロンブス期の陶器やフォートウニーの衣装など見ごたえのあるものです。マドリッドを訪れるなら見逃せないこれらの博物館では、展示会、映画上映や講演会などの企画プログラムがおすすめです。



ラサロ・ガルディアノ 美術館



素晴らしいコレクション収集家として知られるホセ・ラサロ・ガルディアノは『近代のスペイン』の編集者としても有名であり、19世紀後半にバルド・バサン、ウナムノ、ガルドス、ドストエフスキー、トルストイやフローベールなどの作品を出版しました。なかには、初めてスペイン語に訳されたものも含まれています。生涯をかけて集めた美術品、装飾品、武具、家具、書籍や価値の高い書類は現在、彼が妻と生活していたセラノ通りのパルケ・フロリド宮殿で見ることができます。



スペイン絵画

ホセ・ラサロ・ガルディアノは、ゴヤとゴヤから影響を受けた芸術家に深く傾倒していました。『魔女の夜宴』や『魔女たち』などのゴヤの作品のほかにも、この美術館にはフェデリコ・マドラーソの『ヘルトルディス・ゴメス・デアベジャネダの肖像』、エウヘニオ・ルカス・バスケスや、その息子で宮殿の天井画を描いたエウヘニオ・ルカス・ビリアミルなどの見ごたえある作品が所蔵されています。また、館内の3室には、16世紀から17世紀のスペイン絵画の巨匠をテーマとして、ムリリオ、スルバラン、エル・グレコやファン・カレーニョ・デ・ミランダなどの作品を展示しています。

独特の感性

同時期のスペイン収集家とは異なり、ホセ・ラサロ・ガルディアノは中世後期絵画の美しさを理解する目を持ち、プラスチック・デ・グラニエンの『モセン・エスベランサデウ・デ・サンタ・フェの聖母』などの素晴らしい価値のある傑作をコレクションに加えました。コスモポリタンな精神から英国美術にも着目し、この美術館ではリレー、レノルズ、ローレンスやロムニーなどの肖像画を鑑賞できます。また、独特の価値観で特に注目される作品としては、ヒエロニムス・ボスの『洗礼者聖ヨハネ』、そして長い間レオナルド・ダ・ヴィンチの作品とされてきたが、現在ではポルトラフィオの作とする説が有力な謎の絵である『青年期の救世主』が挙げられます。



1. 『ヘルトルディス・ゴメス・デアベジャネダ』、1857、フェデリコ・マドラーソ
2. 『救世主』、1495、ジョヴァンニ・アントニオ・ポルトラフィオ
3. 『魔女の夜宴』、1798、フランシスコ・デ・ゴヤ
4. 『瞑想する洗礼者聖ヨハネ』、1485-1510、ヒエロニムス・ボス
5. テンディーリャ伯爵の刀剣、1486、ジャンコモ・マグノリノ

© Fundación Lázaro Galdiano

自伝とそのほかの至宝

ラサロ・ガルディアノ財団の図書館には、ウィリアム・ヘイスティングスとジャン・ヤコボ・トリヴルツィオの時祷書、複数のペルシャとモンゴル写本や17世紀のケベードの『ペテン師、ドン・パブロスの生涯』の手稿などの珍しい展示物が陳列されています。所蔵されている書物のなかでは、ロベ・デ・ベガとフランシスコ・デ・ゴヤの書簡が注目に値します。劣化の恐れがある資料のために常時の展示はできず、定期展において所蔵品の公開を行っています。また、この美術館のコレクションは、テンディーリャ伯爵の刀剣、複数の象牙細工の箱、そしてタルテッソス文化の壺や西ゴート族のブロンズ細工などの装飾芸術の逸品を豊富に所蔵しています。



ラサロ・ガルディアノ美術館

Serrano, 122

91 561 60 84

flg.es

火曜日から土曜日、
午前10時から午後
4時半まで
日曜日、午前10時か
ら午後3時まで
月曜日閉館

カブリッチョ

『魔女の夜宴』と『魔女たち』の絵画が1789年から1839年にかけて建設されたオスーナ男爵の別邸の壁を飾っていました。ロマン主義の庭園は、マドリードを代表する美しさを誇る公園として知られています。



ソローリャ美術館

画家のホアキン・ソローリャによってチャンベリ地区に建てられた住宅が美術館として公開され、この巨匠の多くの作品が展示されています。このバレンシア出身の画家は、浜辺、庭園やスペインの大衆文化を描いた絵画で20世紀初期に国際的な人気を博し、水面と枝葉に照らす光りの反射を捉える技法を確立しました。



1. 『海岸沿いの散歩』1909
Joaquín Sorolla
© Fundación Museo Sorolla
2. 『ラガルテラの花嫁』1912
Joaquín Sorolla
3. 『ハベアで泳ぐ人たち』1905
Joaquín Sorolla
4. 『売春』1894
Joaquín Sorolla
© Museo Sorolla

浜辺

地中海とカンタブリア海の海岸は、ソローリャの絵画で頻りに表現されています。漁師を主体とした有名な一連の絵画では、日傘を持った休暇を楽しむ人々が見られます。細部に注目すると、湿った砂や肌を表現するために多くの色彩が使用されていることに驚きます。水平線の下での低い視点から人物を力強く捉えた『海岸沿いの散歩』と水中での体のうごきを表現した『ハベアで泳ぐ人たち』は、ソローリャの2大傑作です。

スペイン

ニューヨークにあるヒスパニック協会図書館の装飾を依頼され、ソローリャは大衆文化、絵画的な風景や秘密の庭園を探してスペイン国内を旅しました。マドリードの自宅の庭園も彼の作品に多く描かれています。これを通じてソローリャは、アルフォンソ13世時代のスペイン文化をアメリカ合衆国に伝えるアンパサダー的存在のひとりとなりました。その例が、『ラガルテラの花嫁』、そして山脈の風景やアルハンブラ宮殿のパティオを描いた一連の絵画などの素晴らしい作品です。また、ソローリャは工芸の陶器や歴史的家具などを収集し、今日この美術館に陳列されています。

ソローリャ 美術館

General Martínez
Campos, 37

91 310 15 84

museosorolla.mcu.es

火曜日から土曜日、
午前9時半から午後
8時まで
日曜日と祝日、午前10
時から午後3時まで
月曜日閉館

進歩と貧困

ソローリャは20世紀初期のスペイン社会を写実することで年代記者としての役割も果たしました。当時の知識人、貴族や政治家の肖像画を描いたほか、スペインのさまざまな生き様を絵画で表現しました。その意味において特に、「銀の時代」と呼ばれるスペイン科学の発展を称賛した『研究室のシマロ医師』や『売春』などの絵画から当時を偲ぶことができます。ソローリャは社会的危惧をテーマにした作品を数多く残していますが、後者もそのひとつです。



装飾タイル

ソローリャの家のアンダルシア風庭園は、マドリードを代表する装飾タイルを求めて巡るルートの出発点となることでしょう。そのすぐ近くには、「1919年に開通した0番ホーム」と呼ばれる旧マドリード地下鉄駅のタイル張りのトンネルがあります。



邸宅美術館

絵画の大規模なコレクションのほかに、素晴らしい高級装飾品を展示する旧宮殿に設けられた美術館が複数存在します。「5つの美術館、もうひとつのマドリッド」と名付けられたフリーパスで、ラサロ・ガルディانو美術館、ソローリャ美術館、国立装飾博物館、セラルボ美術館と国立ロマンティズム美術館に入館することができます。

事務所ロマン主義美術館
写真 ハビエル・ロドリゲス

文化カレンダー

芸術との出会い

1. Museo del Prado
2. Museo Thyssen-Bornemisza
3. Museo Reina Sofía
4. Palacio Real
5. Real Academia de Bellas Artes de San Fernando
6. Museo Arqueológico Nacional
7. Museo Lázaro Galdiano
8. Museo Sorolla
9. Museo Nacional de Artes Decorativas
10. Museo Nacional del Romanticismo
11. Museo Cerralbo

芸術週間

2月

マドリードでは1週間のあいだ、世界中から重要な画廊がフェリア・デ・マドリードに集まるARCOマドリードを中心として、さまざまな芸術祭りが開催されます。

フォトエスパーニャ

6月、7月と8月

美術館、画廊と文化センターがこの写真と映像フェスティバルに加わり、マドリードの各所でさまざまな展示会を催します。

建築週間

10月

COAM財団は、そのほかの活動に加えて、マドリードの興味深い建築物を巡るガイドツアーを企画します。

ミュージアムナイト

5月

世界美術館の日を祝って5月18日前後に開催され、この一夜だけ多くの文化施設が公開時間を延長し、特別企画を行います。

開催

9月

夏が終わり、9月の学期初めには、美術画廊が入場自由の企画を行い、訪れる参加者にスナックを振る舞います。

フェリアルテ

11月

オークションハウス、骨董店と画廊が集まるこのフェリアは、収集目的の家具や物品をはじめとする価値の高い品目が出品されることで有名です。

マドリードの芸術

編集: Madrid Destino Cultura Turismo y Negocio. S.A.

住所: Conde Duque, 9-11, 28015 Madrid.

電話番号: +34 91 578 77 58

メール: infousuarios@esmadrid.com

出版: Palgraphic. Tel: +34 91 690 98 87.

詳細: www.esmadrid.com

© Madrid Destino Cultura Turismo y Negocio 2017.

版權所有

納本制度: M-5071-2018



「ディエゴ・ベラスケスは、歴史上最も偉大な画家である。ベラスケスに会えるだけで、マドリードを訪ねる価値がある」

エドゥアール・マネ画家